第４次日野市学校教育基本構想素案

教育理念

子供たち自らが育んでいってほしい力「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」

キーワード：持続可能性、Well-being、共生社会

５０＋回のワークショップ

１４，０００＋人の声

子供と大人の１０+の姿

子供・学校・家庭・地域からの声を凝縮した、日野市の学校教育に関わるみんなで共有したい姿

＜みんなの姿＞

・自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する姿

キーワード：インクルージョン

・変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く姿

キーワード：学びの羅針盤・創造

・自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する姿  
キーワード：対話・協働

＜学校の姿＞

・目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する姿

キーワード：教職員の挑戦

・自分に合った多様な学びと学び方の選択や、探究的で深い学びを支える姿

キーワード：探究的で深い学び

・子供たち全員の居場所と活躍の機会を支える姿

キーワード：居場所・活躍

・様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する姿

キーワード：多様な参画

＜家庭・地域の姿＞

・子供も大人も元気でいられるよう、当事者として学校を応援し、行動する姿

キーワード：応援

・子供たちのありのままを認め、見守り、遊びと学びを支える姿

キーワード：尊重・支援

＜地域・企業・大学の姿＞

・日野ならではのホンモノの体験・ホンモノの感動を共につくり、味わう姿

キーワード：ホンモノ・舞台

３つの基本方針（10+の姿から導き出される、関係者みんなで共有する方針）

・みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる

・みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる

・社会と未来に開き、みんなでつくる

８＋のプロジェクト（力・姿・基本方針を踏まえた、関係者それぞれが主体となる具体的な活動）

学校が主体となって取り組むプロジェクト

・子供たちがつくる学校プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

・学びの変革プロジェクト

一人一人が多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする、学校が主体の取組

・安心できる学校プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

家庭・地域・企業・大学等が主体となって取り組むプロジェクト

・地域共創プロジェクト

地域を舞台として、ホンモノとの関わりの中で遊び、体験し学ぶことにつながる、地域・家庭・企業・大学等が主体の取組

行政が主体となって取り組むプロジェクト

・学校を支えるプロジェクト

学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組

（具体例）第４次学校教育基本構想に基づく多様なプロジェクトへの支援、働き方改革の推進、学校支援体制の整備、施設環境の整備

・多様な学びと学び方プロジェクト

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組

（具体例）教育支援センター機能の充実、発達・教育支援センター機能の充実、専門家による支援の強化、福祉政策、子ども政策を含む関係機　関との連携体制の強化

・教育DXプロジェクト

デジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組

（具体例）情報活用能力の育成・強化、校務支援システム、かしのきシート改善、子供のSOSを把握する仕組みなど、 学校デジタル環境の整備・充実、教員の資質能力の向上・強化

・スクールコミュニティプロジェクト

学校と保護者・地域・企業・大学等が出会い協働する場面を支える、行政が主体の取組

（具体例）

コミュニティスクールの充実、地域学校協働本部の充実、学校施設の活用促進、部活動改革の推進

各関係者が自分たちで立ち上げ取り組むプロジェクト

・〇〇プロジェクト

すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていくことにつながる、〇〇〇が主体の取組

推進方策（構想を推進するための仕掛け）

＜行政＞

・下段の４つのプロジェクトすべてについて、 年度ごとに、その推進のための方策を「年度重点施策」に位置付け、「教育委員会評価」で活用・改善

・子供・学校・家庭・地域のプロジェクトの支援と情報発信

＜学校＞

・年度ごとに、学校として重点的に取り組むプロジェクトを選択・更新又は新たに立ち上げ、「学校経営方針」のもとに具体的な方策として位置付け、「学校評価」で活用・改善

・教職員による第４次学校教育基本構想に基づく取組の共有

＜家庭・地域等＞

・学校運営協議会、地域学校協働本部、PTA、企業、大学などを主体とした多種多様なプロジェクトを「地域共創プロジェクト」や他のプロジェクトとして位置付け、取組の共有・情報発信

・各家庭による第４次学校教育基本構想に基づく取組の共有

行政、学校、家庭・地域の年度ごとの取組を、第４次学校教育基本構想の推進方策として一体的に位置付け

構想の土台

・年度ごとの実践の積み重ね

・第３次日野市学校教育基本構想（H31-R5）に基づく実践の積み重ね・成果

一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ、自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ、わくわくが広がっていく環境のデザインへ